

6 音楽 ―第6学年の実践―

1 題材 日本の歌 ～情景を思い浮かべて～ （教材「おぼろ月夜」）

2 題材について

- (1) 本題材は、歌詞の内容を生かし、旋律の美しさを味わいながら強弱やフレーズなどの表現を工夫して歌えるようにすることをねらいとしている。教材「おぼろ月夜」は、文語体で書かれた歌詞が八・六のリズムで統一され、美しい情景を描き出している。その旋律は音高こそ違うものの、ほとんど同じリズムでの繰り返しになっていて、曲のクライマックスや続く感じ、終わる感じの印象を感じ取りやすい。4小節毎のゆったりとした旋律は、適度の心地よい抑揚をもっており、歌詞と関連付けながら自然な強弱表現を考えていくのに適している。また、一番と二番とで歌詞の構造が違うため、そこに着目した表現の工夫も考えられる。
- (2) これまでの歌唱の学習では、拍の流れやフレーズ、曲のつくりなどを捉えて、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫することを経験してきた。本題材での歌詞と旋律の関わりに着目して表現を工夫していく学習は、2学期の合唱曲において、声部の関わりも感じ取りながら表現を工夫していく学習へとつながっていく。
- (3) 本題材に関する子どもの実態は次の通りである。（調査人数36人）
 - ① ほとんどの子どもたちが、範唱を模倣して音を取り、歌うことができる。
 - ② 旋律の抑揚や曲のつくりに着目して曲のクライマックスを捉える子どもが比較的多く、一方で、歌詞と関連付けて表現の工夫を考える子どもは少ない。
- (4) 本題材の指導にあたっては、次の点に留意する。
 - ① 教材曲については、合唱パートと強弱記号を省いた楽譜を用いることで、題材のねらいである歌詞と強弱に着目した表現の工夫へ向かうことができるようにする。
 - ② 第1時では音取りをして歌えるようにすると共に、感じたことや疑問点を交流し、どのような学習活動をしていくかを話し合っ、学習の見通しをもつことができるようにする。
 - ③ 第2時では、自分たちの歌を録音し、範唱と比較して聴かせることで、強弱やフレーズの捉え方に着目した工夫の余地に気づき、課題を見いだすことができるようにする。
 - ④ 本時では、4人ずつのグループに分かれて表現の工夫を考えさせ、タブレット端末上の楽譜に強弱記号のみを書き加えさせていく。いくつかの特徴的なアイデアのグループの楽譜を大型テレビに提示し、それぞれの工夫とその根拠について説明させ、実際に歌って試すことで表現効果の違いを実感させ、自分なりの表現を考えられるようにしていく。

3 題材の目標

- (1) おぼろ月夜の曲想と、その音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしく、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けている。
- (2) おぼろ月夜の歌詞の内容と、旋律のもつリズムや旋律の終わり方などに着目し、強弱やフレーズの捉え方などをどのように表現するかについて、思いや意図をもっている。
- (3) おぼろ月夜の歌詞の内容、旋律の美しさを味わいながら表現を工夫して歌う学習に、主体的・協働的に取り組もうとしている。

4 指導計画（3時間取り扱い）

- (1) おぼろ月夜を歌い、感想や疑問等を交流して学習の見通しをもつ。・・・・・・・・・・1時間
- (2) 歌詞の意味を知り、情景を想像しながら歌う。録音から課題を見つける。・・・・・・・・1時間
- (3) 強弱やフレーズなどの表現の工夫を考えて歌う。・・・・・・・・・・1時間（本時）

5 本時の学習

(1) 目標

おぼろ月夜の表現の工夫についてグループや全体で話し合う活動を通して、強弱やフレーズ等に着目した自分なりの表現の工夫を、歌詞や旋律の抑揚等を根拠に考えることができる。

(2) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考
1 おぼろ月夜を歌い、本時の課題を設定する。	7	○ 前時の内容を振り返らせ、本時は歌詞が表す内容を表現できるよう、楽譜に書いていない強弱表現等を工夫することを確かめ、課題設定をする。	前時の板書画像
おぼろ月夜の歌詞の内容を表すには、どのように工夫して歌うとよいのだろうか？			
2 課題について話し合う。 (1)グループで話し合う。	10	○ 4人組のグループで1番の表現の工夫について考えさせる。タブレット端末一台を配付し、話し合った強弱記号を楽譜画像に書き込ませ、その設定理由について説明の準備をさせる。	タブレット端末
(2)グループで考えたことを全体で共有し、歌い比べてみる。	15	○ 特徴的なグループの楽譜画像を大型TVに表示して説明させ、表現の工夫の具体を視覚的に共有できるようにする。また、必要に応じて根拠を問い返し、歌詞や旋律の動きなどに関連付けて考えることができるようにする。 ○ 複数のグループを取り上げ、その場で全員で歌って比較させることで、表現効果やその違いを実感できるようにする。	大型TV タブレット端末
3 強弱やフレーズに着目し、自分なりの表現の工夫を考える。 (1)こだわりの一部分について、個人で表現の工夫を考える。 (2)考えた工夫を生かして、実際に歌ってみる。	8	○ 活動2で考えたことをもとに、1番の特に工夫をしたい1段に限定して、個人で表現の工夫を考えさせる。その際、表したいものや、工夫の根拠について説明を添えて書かせることで、思考を見取ることができるようにする。	ワークシート
4 学習全体を振り返る。	5	○ 題材全体を通して学習してきた内容や、友達や自分の考えた表現の工夫についてについて記述するよう指示し、自分の思考過程を振り返らせる。	振り返りシート

【評価】

おぼろ月夜の特定の1段について、強弱やフレーズ等に着目した自分なりの表現の工夫を、歌詞や旋律の抑揚等を根拠に書くことができている。(楽譜の記述)

6 指導の実際

(1) おぼろ月夜を歌い、本時の課題を確かめる。

指示

前時までに学習したことをふまえて、おぼろ月夜を歌ってみましょう。

※ 授業の導入では、「今月の歌」や教材曲を歌って音楽を楽しむ雰囲気作りをします。低学年や中学年では、リズム遊びや曲に合わせた身体表現などをするのもよいでしょう。本時のねらいにつながる音楽の要素や仕組みと関連する活動にすると効果的です。

発問

前時の学習の中で、課題が見つかりましたが、どのようなものでしたか？

C：自分たちの歌を録音して聴いてみたら、なんだか平坦な感じがして面白くなかったです。

C：つくった人は多分景色に感動しているんだけど、そういう歌にはなっていませんでした。

C：だから、強弱を付けようという話になったよね。

C：でも、強弱以外にも何かできそうな気がするなあ…。

課題

おぼろ月夜の歌詞の内容を表すには、どのように工夫して歌うとよいのだろう？

(2) 課題について話し合う。

指示

4人組のグループで、課題について考えてみましょう。タブレット端末をグループに一台配ります。アプリに楽譜の画像を入れているので、まずは一番の強弱の工夫について話し合って書き込んでみましょう。考えの根拠や理由については、画像を提示しながら説明できるようにしましょう。強弱以外の工夫を考えた時にも、口頭で説明するようにしてください。

※ 後半の全体での話し合いを深めるには、ここで考える箇所や着目する要素について、ある程度細やかに指示を出しておかなければなりません。事前に条件を考えておく必要があります。

① グループで話し合う

C：一番盛り上がるころって、3段目だよね。

C：そうだよね。ここが一番全体的に音程が高いもんね。

ここはfでいいよね。

C：え、でも「春風そよふく」だよ。fはやり過ぎ。mfだよ。

C：たしかに。うーん、でもfにしとかないと盛り上がらないよ。

C：最初を小さく始めればいいんじゃないの？差が大きければ盛り上がるんじゃないかな。

C：そうか。じゃ、最初をpで始めよう。そうすると「菜の花畑に入り日薄れ」感も出るね。

※ グループの話し合いでは、机間指導をしながらどんな表現の工夫を考えているかを把握していきます。その際、どのような見方・考え方を働かせているのか、つまりどんな要素に着目して考えているのか、何を表そうと思って考えているのかを的確に見取る必要があります。いくつかの異なるアイデアをもったグループを全体で取り上げることができれば、子どもたちは最初とは違う要素に目を向け、さらに表現を深めていくことができます。



楽譜に強弱の工夫を書く

② グループで考えたことを全体で共有し、歌い比べてみる。

C：ここが一番音程が高くなっていますよね。私たちのグループは3段目のここがクライマックスだと思ったので、ここを一番強いfにしました。

C：(3段目の旋律の)最初がソソドって上に上がっているから、自然と大きくするのいいと思ってクレシェンドにしています。

C: でも、f にしちゃうと「そよふく」って感じが出ないよ。私たちのグループは、今のと似てるけど一番大きいところをm f までにしておいて、その分最初をp にして差を出しました。

T: 今3段目の工夫について2つのアイデアが出ましたね。両方試してみましようか。(試唱)

C: うーん、確かにf はやりすぎかもしれない。びゅーびゅー吹いている感じがするね。

C: でもm f って難しいね。f って思って歌った方が私はきれいに歌える気がするなあ…

T: 旋律の動きに注目した工夫、歌詞が表すもの考えた工夫と2種類考えがありましたね。

※ 着目した要素や表すもの(関連付けて考えた歌詞等)を板書に示し、見方・考え方をどう働かせたのかを子どもたちが自覚できるようにしていくことも大切です。

グループで考えた強弱の工夫

(3) 強弱やフレーズに着目し、自分なりの表現の工夫を考える。

① こだわりの一部分について、個人で表現の工夫を考える。

指示

各グループから異なる表現とその根拠・理由が出ましたが、あなた自身はどのように表現するのがよいと考えますか？全部を考えるのは大変ですので、4つの段の中からこだわりの1段を選び、自分なりの表現の工夫とその根拠・理由についてワークシートに書きましよう。

C: 「そよふく」といっても、風が吹いている感じが出るようにf にしよう。でも「春風」は柔らかい感じにしたい。後半の「空をみれば」は落ち着いて見る感じを出したいから、急にデクレシェンドして同じ強さで歌うといいと思うな。

個人で考えた強弱の工夫とその根拠・理由

② 考えた工夫を生かして、実際に歌ってみる。

指示

それぞれ歌い方は違ってかまいません。自分が考えた表現の仕方でも歌ってみましよう。

C: 前回の録音よりもよくなったな。3段目の強弱の差がついて、「入り日薄れ」とか、「春風そよふく」とか、「おぼろ月夜」って感じが出たと思う。

(4) 学習全体を振り返る。

指示

3時間全体を通して学んだことや、友達の意見で考えが変わったこと、友達の表現の工夫について思ったことについて書いてみましよう。

C: 最初は旋律の動きだけで強弱を考えていたけど、歌詞の内容に合わせて考えている子の考えを聞いてなるほどと思った。隣の子が4段目を大きく歌っていたのもいいかなと思った。

※ 振り返りは視点を示す必要があります。学習内容だけでなく、考えが変わるきっかけとなった友達の意見を振り返らせることで、学習前よりも音楽を様々な要素に着目して捉えたり、表現に新たな意味を見いだしたりすることができていくと思います。(中島 千晴)